

第7回経営と技術移転に関する国際会議(ICBTT2014)開催報告

ICBTT2014実行委員長

綿貫啓一(埼玉大学)

第7回経営と技術移転に関する国際会議 ICBTT2014(The 7th International Conference on Business and Technology Transfer)は、2014年12月4日から6日までの3日間、ドイツのマグデブルグ大学(Otto von Guericke University Magdeburg, Germany)にて開催されました。マグデブルグ(Magdeburg)は、ドイツ連邦共和国を構成する16の連邦州の1つであるザクセン・アンハルト州(Land Sachsen-Anhalt)の州都です。マグデブルグは、ベルリンから電車にて約1時間40分であり、ザクセン・アンハルト州のほぼ中央に位置し、人口は約23万人です。マグデブルグは、1654年にオットー・フォン・ゲーリケ(Otto von Guericke: 1602-1686)がレーゲンスブルクの帝国議事堂前において、神聖ローマ皇帝フェルディナント3世の御前で行なった大気圧を示す実験である「マグデブルクの半球」で有名です。この実験で、16頭の馬(両側から2頭立ての馬が各4対)が双方から引っ張り、やっと半球は外れたことにより、デカルトが否定した真空の存在を証明したものです。



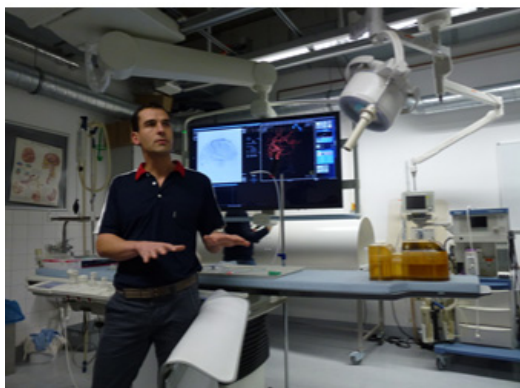
マグデブルグの半球

マグデブルグ大学は、物理学者でありマグデブルグ市長であったオットー・フォン・ゲーリケの名前にちなんでおり、1993年に開校したドイツでは最も新しい大学の1つです。マグデブルグ大学の前身は、マグデブルグ工科大学(Technische Hochschule Magdeburg)であり、現在では14,000名の学生が機械工学や経済・経営、医学などの9学部にて在籍しています。

ICBTT2014 国際会議の開催に先立ち、マグデブルグ大学 Karl H. Grote 教授による”Engineering Design”に関するワークショップが開催されました。午後から開催された ICBTT2014 国際会議の開会式では、マグデブルグ大学 Karl H. Grote 教授より開会のご挨拶、同大学 Jens Strackeljan 学長より歓迎のご挨拶、在ドイツ日本国大使館増子則義参事官よりご祝辞を頂いた後、ICBTT2014 実行委員長綿貫啓一より開会の挨拶および開催内容の説明がなされました。ICBTT2014 国際会議には、日本、ドイツから機械工学や経営学などを専門とする34名の参加者があり、3件の招待講演、18件の一般講演が行われました。

第1日目は、Albert Hövel 博士(DIN e.V.)による招待講演1件、一般講演4件があり、活発な討論がなされました。講演後には、Experimental Factory(ExFa)の研究室見学を行い、マグデブルグ市内をワーキングツアーの後、Ratswaage ホテルにて夕食会が開催され、参加者同士の交流がなされました。第2日目は、Oliver Tegel 博士(Porsche AG)および芹澤良洋氏(新日鐵住金)による招待講演2件、一般

講演 14 件があり、活発な討論がなされました。講演後には、Japanese Drummer のイベントが開催された後、Technical Museum Magdeburg の見学を行いました。博物館内の Lukas Klause にてバンケットが開催され、日本機械学会技術と社会部門長高田一教授らによるご挨拶の後、参加者やマグデブルグ大学教員との歓談し、有意義な交流会となりました。第 3 日目はテクニカルツアーとしてマグデブルグ産業博物館およびマグデブルグ市内を見学し、国際会議の全日程を終了しました。



ICBTT2014 国際会議の風景

ICBTT2014 国際会議は、経営と技術移転や工学教育をはじめとした講演や討論、大学施設見学やテクニカルツアーを通じた情報収集などにより、参加者にとって充実した国際的な交流や情報交換が図れたものと思います。

本会議に関する情報は、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.jsme.or.jp/tsd/kokusai.html>

<http://human.mech.saitama-u.ac.jp/icbtt2014/>

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.32

(C)著作権:2015 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門